

東奥日報
2026年(令和8年)7月3日(金曜日) (18)

「二日を大事に挑戦」

五輪ジャンプ代表・一戸さん(野辺地)

八工大で学生向け講演

八戸

八戸工業大学同窓会(浅利壽信会長)は6月24日、2006年トリノ冬季五輪スキー・ジャンプ団体ラージヒル6位の

一戸剛さん(50)野辺地町在住を招き、「夢に向かってのメッセージ」をテーマに八戸市の同大で講演会を開いた。病氣やけがなど数々の困難を乗り越えて五輪出場を果たした一戸さんは、「一日一日を大事にし、目標に向かってチャレンジを続けて」と聴講した学生ら約150人に語りかけた。

一戸さんは野辺地中3年時、クロスカントリーから複

合に転向した。弘前工業高2年時、ジャンプの練習中に転倒して腎臓破裂の大けがを負い、さらに食中毒で入院。約5キロ体重が落ちたが、インタ

ーハイ複合で3位入賞を果たした。社会人時代には難病の潰瘍性大腸炎を発症し、選手生命が危ぶまれたが、コーチに勧められて体への負担が少ないジャンプに転向。大好きなスキーを続けた一戸さんは、本気でトレーニングに取り組んだ。関係者から「ジャンプでは活躍できない」と言われて奮奮し、練習で努力と工夫を重ねてトリノ五輪代表に選出。五輪のジャンプ台から見た美しい光景に「これがオリンピックか」と涙が出たと述べた。

学生に向けて「失敗を恐れず、何でも工夫して実行しよう。失敗や挫折があったら、その代わりに良いことが起こるという考えを持ってみて」とアドバイスした。

(千葉真由美)



「チャレンジに正解や答えはない。学生のうちにいろいろなことに取り組んで」と語る一戸さん

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」